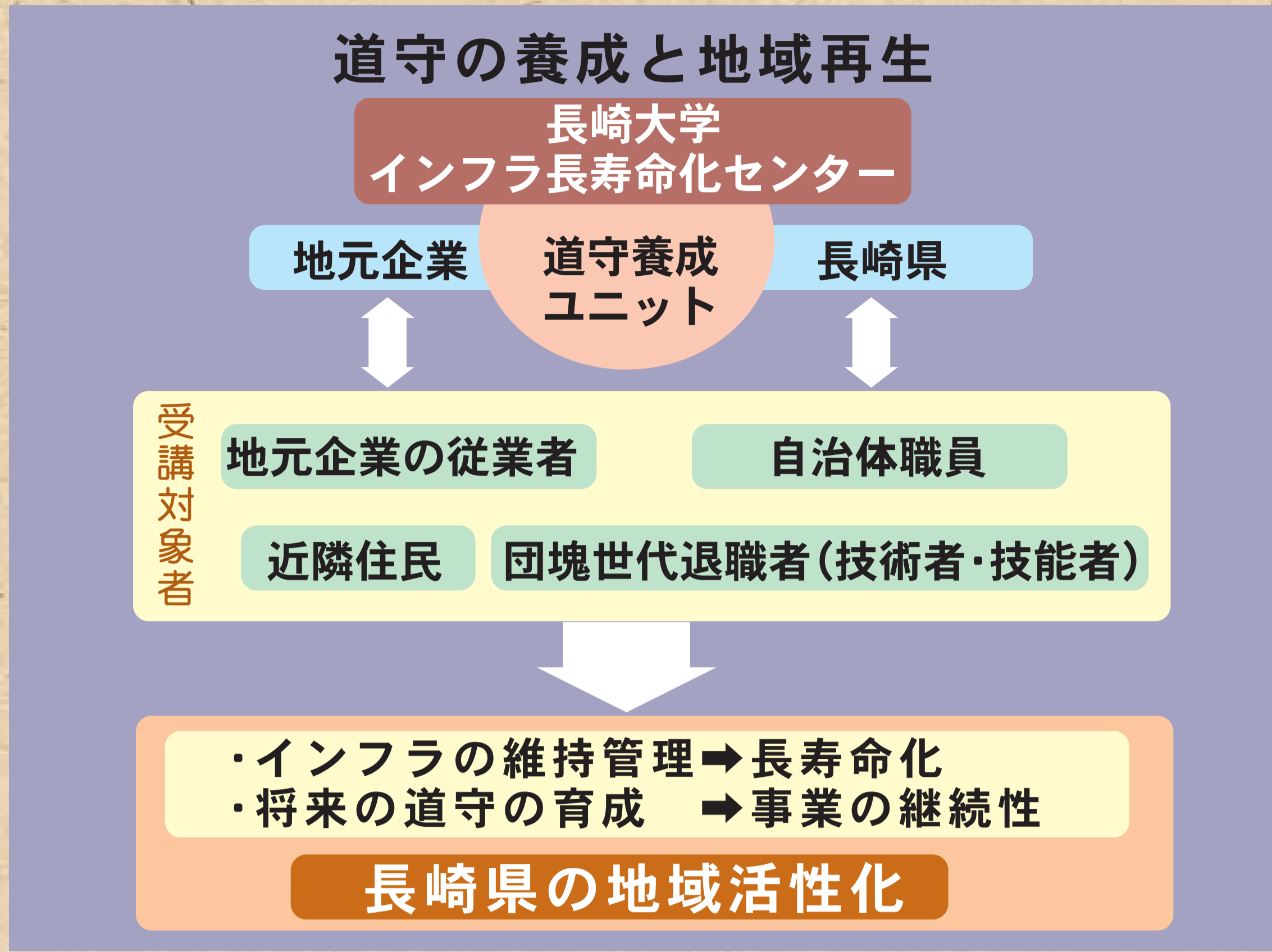


長崎大学で”道守”みちもり養成講座が始まりました

長崎大学と長崎県等が連携して実施する社会人のための人材養成プログラム『観光ナガサキを支える”道守”養成ユニット』（平成20年度から24年度）が、地域の道を守る人材を育てる事業として立ち上がりました。プロジェクトを先導する長崎大学工学部（工学科）の松田浩教授は、事業の内容についてこう語ります。



「長崎県には、美しい自然や名所・旧跡等をはじめとする観光資源が多く点在し、それらを結ぶ『道』は重要な役割を果たしています。しかし、これらの道は、今後老朽化が進行するため、整備方法も新設から維持管理へ、事後保全から予防保全へと変化する必要があります。その際に大きな役割を果たすのが”道守”です。そこで、本プロジェクトでは、道守・特定道守・道守補・道守補助員と称する人材を育てていきます。道守、特定道守、道守補は、土木技術者の方が対象で、道守補助員は、県内在住の住民の方を対象としています。昨年11月から道守補・道守補助員の講座を始めました。あわせて56人という多くの方々に参加いただきました。平成21年度からは、新たに道守・特定道守の講座も始まり

「長崎県には、美しい自然や名所・旧跡等をはじめとする観光資源が多く点在し、それらを結ぶ『道』は重要な役割を果たしています。しかし、これらの道は、今後老朽化が進行するため、整備方法も新設から維持管理へ、事後保全から予防保全へと変化する必要があります。その際に大きな役割を果たすのが”道守”です。そこで、本プロジェクトでは、道守・特定道守・道守補・道守補助員と称する人材を育てていきます。道守、特定道守、道守補は、土木技術者の方が対象で、道守補助員は、県内在住の住民の方を対象としています。昨年11月から道守補・道守補助員の講座を始めました。あわせて56人という多くの方々に参加いただきました。平成21年度からは、新たに道守・特定道守の講座も始まり



現場実習の様子

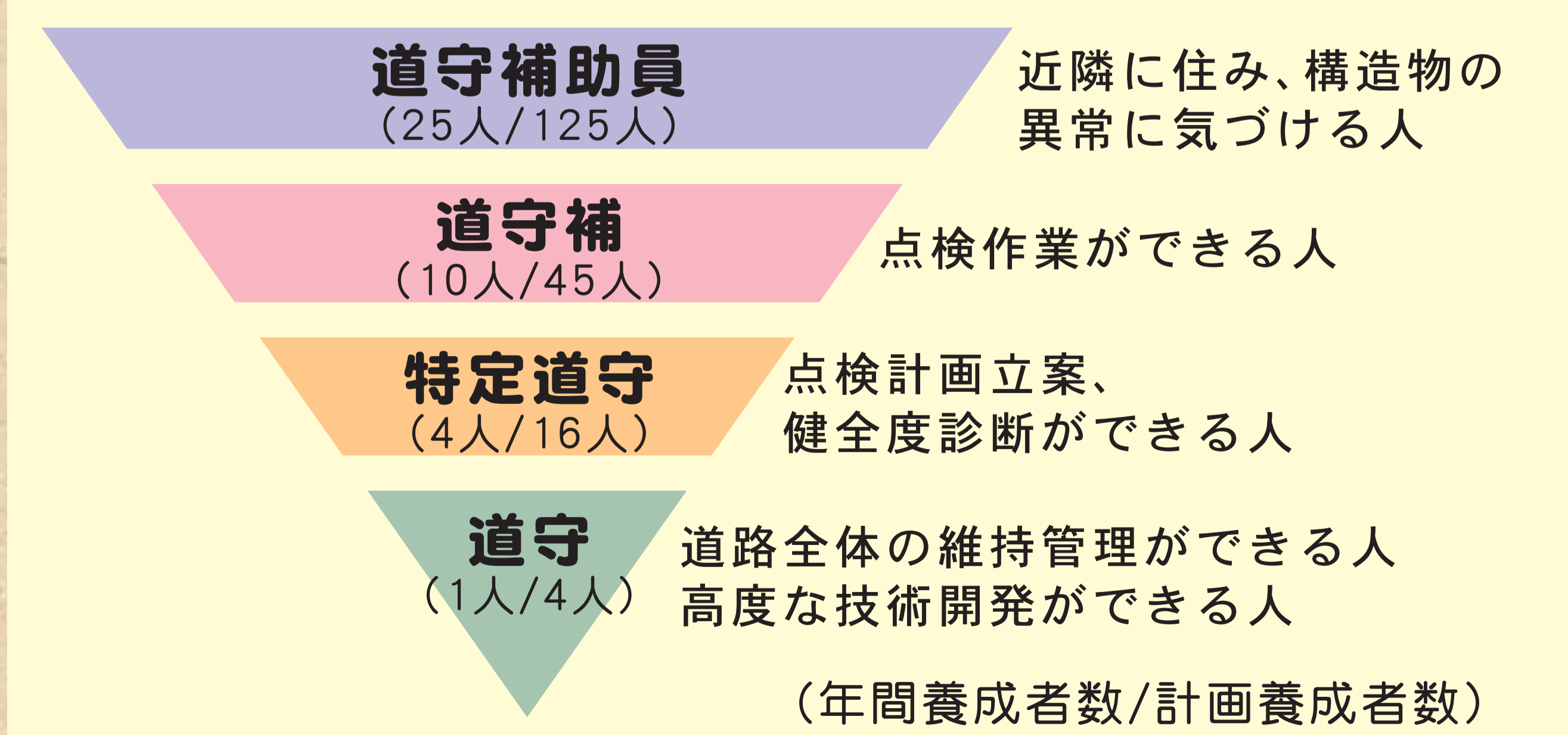
「最終的な管理者は行政ですが、自分たちの道は自分たちで守るといふ発想が大事です」と松田教授。将来的には「道」だけでなく、海や川、山を守る人材も育成していく必要があると展望を語ります。「人」が育つことによって、地域に補修や点検の仕事が生まれ地域の活性化につながるほか、交通インフラ施設の長寿命化も図られます。ご応募お待ちしております。道路の異常を適切に通報や点検ができる人が育ち、それとともに、道の草刈りや清掃は住民で行う、これだけでも構造物の劣化が生じにくいというデ



長崎大学工学部
インフラ長寿命化センター
松田浩教授

「人」が育つことによって、地域に補修や点検の仕事が生まれ地域の活性化につながるほか、交通インフラ施設の長寿命化も図られます。ご応募お待ちしております。道路の異常を適切に通報や点検ができる人が育ち、それとともに、道の草刈りや清掃は住民で行う、これだけでも構造物の劣化が生じにくいというデ

道守の構成



長崎大学での道守補助員養成講座の様子